

有明海水産資源回復技術確立事業* ガザミ放流4県共同高度化試験(操業状況調査)

土井 大生

ガザミは、有明海沿岸4県で広域に利用されている重要な漁獲対象種である。漁獲量の増加や資源回復を目的とした放流が行われているが、正確な放流効果の算出には漁獲動向の把握が不可欠である。本試験では、ガザミを対象とした漁業の操業状況調査を行ったので、その概要を報告する。

聞き取ることで行った。さらに、月に1回程度、漁獲物を測定し、平均全甲幅長、平均重量を求めた。なお、7～8月及び11～12月は漁獲物を測定できなかったため欠測とした。なお、推定漁獲量は、聞き取りで得られた操業日数に漁獲物の平均重量、日当たりの漁獲平均尾数を乗じた方法で算出した。

方 法

2024年5月～12月にかけて、佐賀県有明海漁業協同組合（以下、漁協）大浦支所に所属する、ガザミを対象とした固定式刺し網漁業者13名に、操業日誌（出漁の有無、漁獲尾数等）の記入を依頼し、操業実態を取りまとめた。また、年間操業日数の把握は、漁協の各支所へ

結 果

1日1隻当りの漁獲尾数（CPUE；尾/日・隻、以下CPUEとする）は、漁期の前半は低い傾向を示し、10月に高い値を示し、91.2尾/日・隻であった。（図1）。

操業日数の推移（図2）は、5～8月まで65～309日/月だったものが、9月から急増し、11月まで514～786日/月となり、12月には288日/月と減少した。

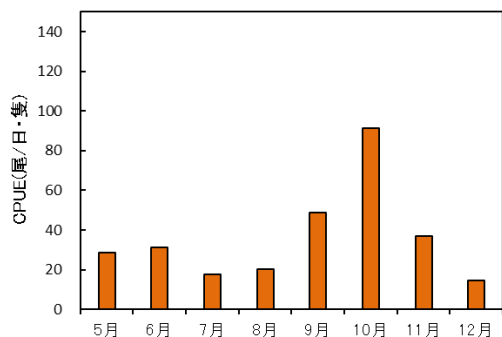


図1 各月のガザミのCPUE

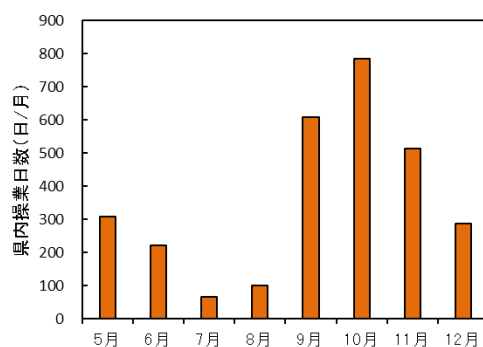


図2 各月の県内操業日数

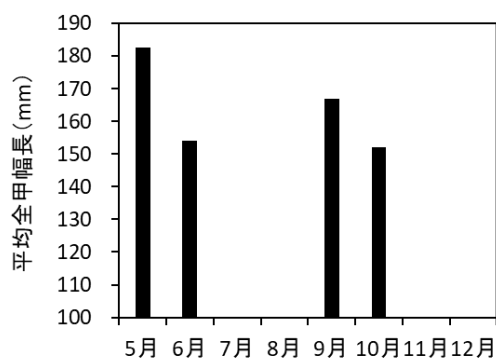


図3 各月の漁獲物の平均全甲幅長

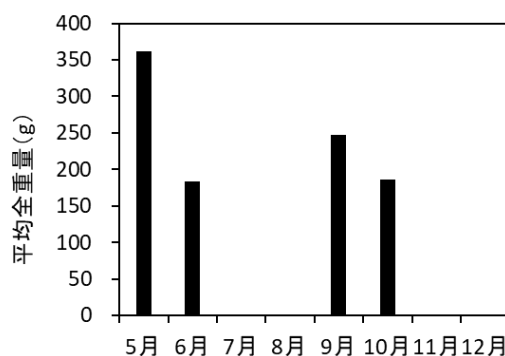


図4 各月の漁獲物の平均全重量

各月の漁獲物の平均全甲幅長は、7～8月及び11～12月を除き、5月で最大を示し182.6mmで、最小は10月で152.0mmであった（図3）。

各月の漁獲物の平均全重量は、平均全甲幅長と同様の傾向で5月で最大を示し361.5gで、最小は6月で183.4gであった（図4）。

以上の結果から2024年度のガザミの推定漁獲量は、32.8トンと推定された。

文 献

- 1) 上田 拓, 篠原 直哉, 大庭 元気, 上利 貴光, 上原 大知, 菅谷 琢磨, 井上 誠章. 有明海福岡県地先で放流されたガザミ種苗の成長, 移動, 放流効果. 福岡水海技セ研報 2019